



SOCIETY FOR INFORMATION DISPLAY

日本支部

第 88 号

Newsletter

発行元：SID日本支部

発行責任者：中村卓

発行日：2025年2月18日

支部 HP URL：http://www.sid-japan.org/



新支部長挨拶

中村卓 (ジャパンディスプレイ)



この度、支部長に就くこととなりました株式会社ジャパンディスプレイの中村卓です。SID (Society for Information Display) は IEEE と並び 1960 年代初頭からの長い歴史を誇り、その日本支部は 1975 年に発足し 2025 年に 50 周年を迎えます。大役を担うにあたり、なすべきことをよく考えて取り組んでまいりたいと思います。

私は大学卒業後、東芝で低温ポリシリコン薄膜トランジスタ (LTPS TFT) 技術に出会いました。LTPS TFT の電界効果移動度が高い点に着目し、ディスプレイの画素の高精細化や、さまざまな機能をディスプレイに集積化する「システムオンガラス」や「インセルセンサー」と呼ばれる技術の研究開発に取り組みできました。ディスプレイの性能・機能向上が電話機のスマートフォンへの進化に貢献し、人々の生活を変容させていくのを目の当たりにしてきました。現在は

さまざまな TFT 技術を「大面積エレクトロニクス」を支えるバックプレーン技術として、より広範な分野に展開する研究開発に産学各所と取り組んでおります。

また、SID 等の学会活動に関しては、東芝での「成果は都度、学会報告にまとめること」という教えを守り、アメリカの SID Display Week や日本で開催されるディスプレイの国際会議 IDW 等で報告し論文文化してきました。そしてセミナー講師や IDW のワークショップ、SID のサブコミッティのプログラム委員を務め、2017 年と 2018 年にはアメリカの SID Display Week での Monday Seminar で講演する貴重な経験もしました。さらに、2 年前から日本支部の副支部長を務め、役員・委員の方々と SID 日本支部の運営面の課題把握と改善に取り組んできました。その過程で、過去に学会等の場で議論をさせていただいた方々や、SID や IDW の委員活動で接した方々がやはり SID や IDW の運営に参画されており、暖かいお声がけもいただき大変心強く感じております。

現在の最重要課題は、かつて 1000 人以上を誇った日本の SID 会員数がコロナ禍で 3 割減少したまま停滞していることです。これは単なる数字の問題ではなく、次項に述べるコミュニティの機能発揮や発展ができず、最終的には衰退につながるリスクをはらんでいます。ただ、既に SID Display Week の論文投稿数や総参加者数はコロナ禍前を上回る水準となっており、世界のディスプレイ関連業界は盛り上がり期待できます。この機に、あらためて SID および日本支部の役割を確認し、運営面の改善をしていきたいと思っております。

SID Display Week には、世界中のディスプレイ、材料、関連部品、光学機器、計測機器、ソフトウェア関連の企業、スマートフォン・自動車・パソコンなどの最終製品に関する企業、および大学や研究機関の錚々たる人々が参加しています。研究成果の社会実装や新規製品創出のための情報収集をしたい企業・大学・研究機関にとって格好の場です。また、日本支部のイベントでは、各分野の専門家を講師に招き、注目トピックスの報告や関連セミナーを日本語で実施しています。これらに会員価格で参加し、ホットな分野の技術深耕や情報収集ができます。また、IDW に SID 会員価格で参加できるのも大きなメリットです。これらを通じて、SID および日本支部が、新技術の報告、深耕、社会実装、さらには人々の生活を変容させていくエコシステムの役割を担っているのだと思います。

また、自身の経験上、SID や IDW での質疑応答は、聴衆の理解や報告の有益性を深めるためのものが多く、学会発表を論文にまとめる際に役立ちました。報告や論文が積み重なれば、セミナー講演の機会も生じ、自身の研究開発をあらためて少し高い視点から俯瞰し産学の方々との議論に発展します。このように個人の

成長をはぐくむ空気が息づいており、会員であり続け、学会やイベントに参加することが個人にとって大変有益です。

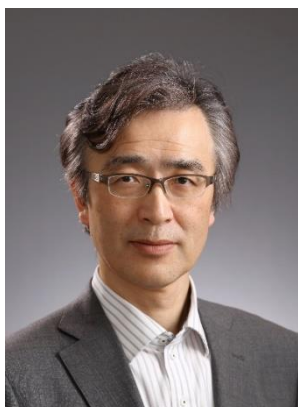
これらのSIDおよび日本支部の機能・役割が発揮され、会員が満足でき新規会員が増加するよう運営面に取り組んでいきたいと思っております。また、12月のIDWをきっかけにSID会員になる方々も増加しています。IDWの皆様とも交流を深めていきたいと考えております。また2023年より服部前支部長のもとで50周年記念講演会(技術分野ごとに全5回)を行ってきました。その第4回では参加者数が100名を超えるまでに発展しています。最後の第5回は2025年に開催予定です。この先も末永くお付き合いいただくことにつながるものにしてまいりたいです。

以上のように考えまして、SID日本支部というコミュニティを拡大し、新技術のエコシステムであり、かつ会員自身に資する機能・役割を発展させていきたいと、SID日本支部の皆様のご支援、ご協力を賜りたく存じます。SID日本支部とディスプレイ技術関連業界のさらなる発展をめざし、微力ながら尽力してまいりますので、今後とも皆様の積極的なご参加とご協力をお願い申し上げます。



支部長退任挨拶

服部励治 (九州大学)



昨年末をもちまして、2年間務めさせていただいたSID日本支部の支部長を退任いたしました。在任中は、SID日本支部会員の皆様のご支援と、支部役員の皆様の多大なご協力に支えられ、無事に職責を果たすことができました。心より感謝申し上げます。

私が在任中に特に力を入れた活動の一つに、2025年のSID日本支部設立50周年に向けた記念講演会の開催があります。これは、前荒井支部長から託されたプロジェクトであり、50周年を迎える2025年までに合計5回の記念講演会を開催する計画でした。幸いにも、私の任期中に4回の講演会を開催することができたことを、大変光栄に思っております。日本におけるフラットパネルディスプレイの研究・開発の歴史を語ってくださった講師の皆様には、深く感謝申し上げます。また、この4回の講演会を成功裏に実施できたのは、50周年特命委員の水崎様の

多大なご尽力のおかげです。心より御礼申し上げます。

そして、記念講演会のフィナーレとなる第5回は、現中村支部長へと引き継がれました。盛大な開催となることを心より期待しております。会員の皆様におかれましては、ぜひ多くの方々にご参加いただき、ともに50周年を祝っていただければ幸いです。

今後は、一会員としてSID日本支部およびディスプレイ業界のさらなる発展を見守り、引き続き貢献していきたいと考えております。新たな体制のもと、日本支部がより一層発展していくことを心より願っております。

最後になりますが、改めて皆様のご支援に深く感謝申し上げます。今後とも、SID日本支部の活動へのご協力とご参加を何卒よろしくお願い申し上げます。

【2024~2025年SID日本支部主催】イベントの紹介

SID日本支部が主催するイベントを紹介します。

	開催日	イベント名
2024年度 ご参加ありがとうございました。	3月15日(金)	50周年記念企画第三回講演会 (ハイブリッド)
	3月21日(木)	第7回ディスプレイトレーニングスクール (オンライン)
	7月12日(金)	Display Week 2024 報告会 (オンライン)
	8月29日(木)~30日(金)	第19回サマーセミナー(オンライン)
	11月1日(金)	50周年記念企画第四回講演会 (ハイブリッド)
	12月3日(火)	IDW '24 チュートリアル (現地開催)

2025 年度	開催予定	イベント名
	7 月ごろ	Display Week 2025 報告会 (企画中)
	7 月ごろ	【最終回】50 周年記念企画第五回講演会 (企画中)
	8 月ごろ	第 20 回サマーセミナー(企画中)
	9 月ごろ	第 8 回ディスプレイトレーニングスクール (企画中)

＼皆様の積極的な参加をお待ちしております。／

【SID 日本支部主催】

IDW'24 チュートリアル

中村卓 (ジャパンディスプレイ)

開催報告



毎年恒例の SID 日本支部主催の「IDW'24 チュートリアル」を、IDW'24 の前日である 2024 年 12 月 3 日に開催しました。これは IDW'24 の Topical session (TS) および Workshop (WS) を代表する方々に講師になっていただき、関係セッションの概要、注目の講演、背景・基礎知識を日本語で解説いただくものです。特に学生や若手エンジニア、異分野エンジニアの皆様へ IDW'24 への参加意義・効果を高めていただくことを目的としています。IDW が現地開催であることにあわせ、本チュートリアルも現地開催としました。80 名弱の方々のご参加をいただきました。

講演は IDW'24 でのセッション数が多いところを中心に 7 つの WS/TS を代表される 7 名の方々に下表の講演タイトルで各 30 分ずつ行っていただきました。

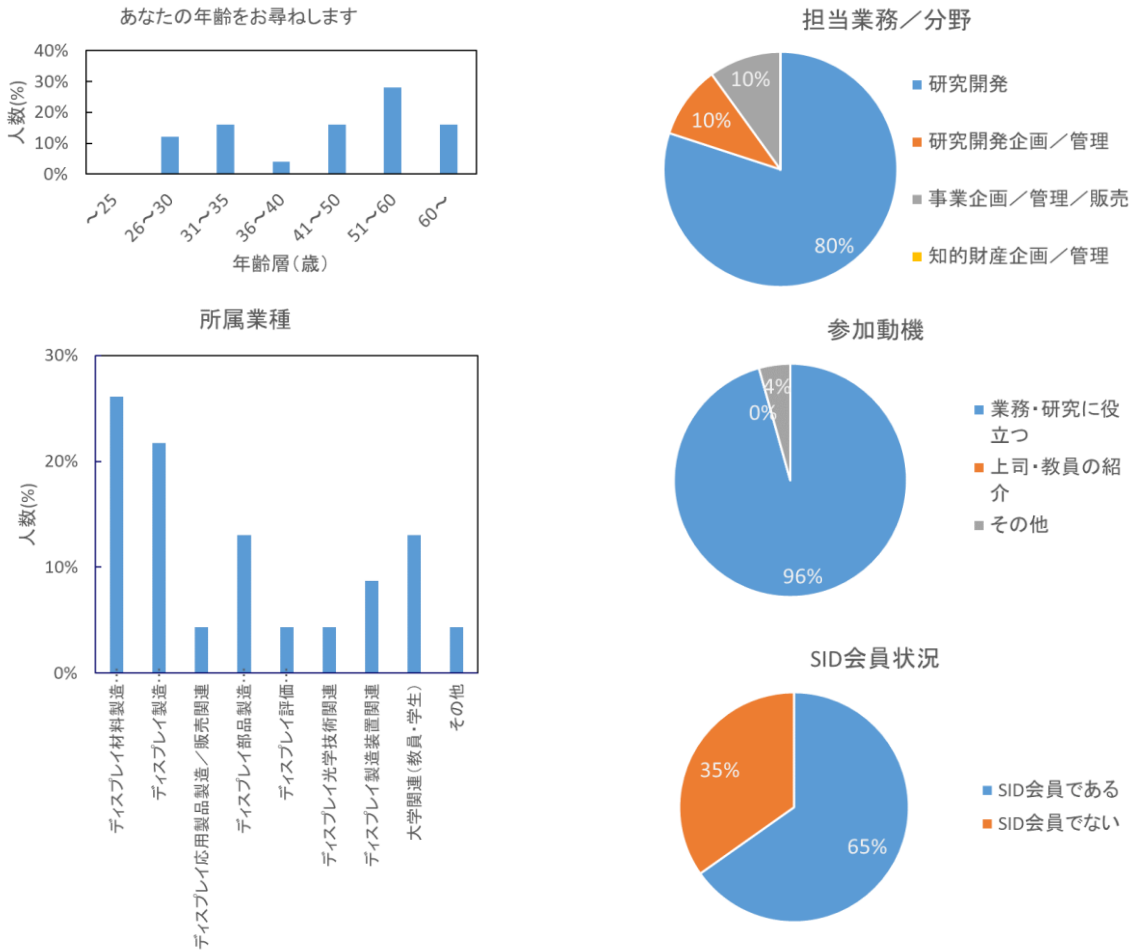
各講師の皆様には講演資料の前日配布、当日の日本語でのわかりやすいご講演に多大な協力をいただきました。あらためて感謝申し上げます。

TS/WS	講演タイトル	講演者 (敬称略)
IST-TS	Image Sensing Technologies	大倉 俊介 立命館大学
AMD-WS	Active Matrix Displays	辻 博史 NHK 放送技術研究所
LCT-WS	LC Science and Technologies	吉田 浩之 関西学院大学
FMC-WS	FPD Manufacturing, Materials and Components	本村 玄一 NHK 放送技術研究所
OLED-WS	OLED Displays and Related Technologies	野口 裕 明治大学
MVS-TS	Metaverse System	大内 敏 日立製作所
MEET-WS	MEMS and Emerging Technologies for Future Displays and Devices (MEET)	中本 正幸 静岡大学

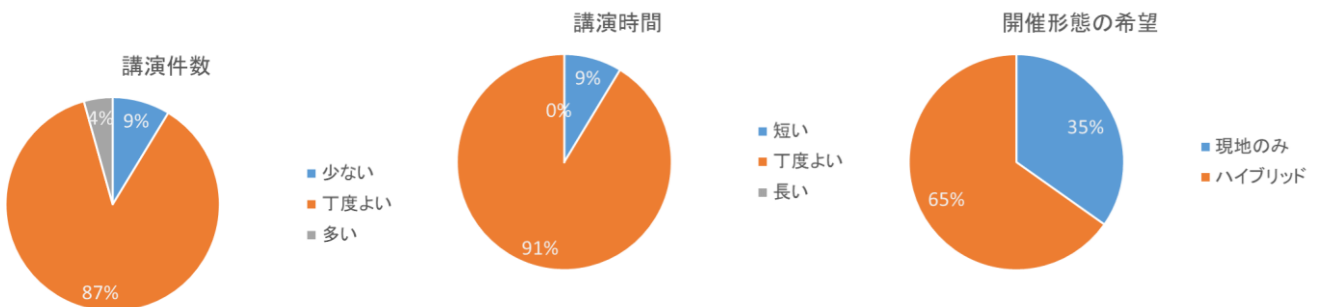
アンケートでは 23 名の方から回答をいただきました。全参加者の約 3 分の 1 ですが貴重なデータです。以下では、参加者の属性と、プログラム構成の視点からみていきます。

・参加者の属性：回答者の年齢層は中堅からベテランの方々が多く、25 歳以下は 0 という結果でした。本チュートリアルは学生や若手エンジニアを重要な対象者としていることに照らし、意外な結果です。所属業種ではディスプレイ材料製造／販売関連とディスプレイ製造／販売関連が多く、広い業種からご参加いただいています。担当業務／分野については研究開発および研究開発企画／管理の方が 90% を占めました。参加動機については、業務・研究に役立つとする方が 96% で、上司・教員の紹介は 0% でした。自身の業務・

研究のために主体的に参加される方が大半ということです。また、SID 非会員の方が 35%でした。これらの方々にはぜひこの機会に SID 会員になっていただきたいと思ひます。



・プログラム構成：講演件数（7 件）と講演時間（各 30 分）については「ちょうどよい」の回答がともに 9 割程度と大半でした。これら 7 件の講演で IDW'24 の全領域をカバーできていたわけではありませんが、「別の WS/TS についてもチュートリアル講演をしてほしかった」という前回みられたコメントは、今回はありませんでした。実は今回は前回以上に IDW'24 運営の皆様の協力を仰ぎ、講演テーマと講師推薦について多大なご協力をいただきました。そのおかげで注目度の高い WS/TS に関するプログラム構成ができました。この場を借りて IDW'24 の運営の皆様に深くお礼申し上げます。自由記述コメントでは、「基礎的な内容を丁寧に説明するあまり、注目講演についての言及が駆け足になったり、省略しないでほしい」という意見が 5 件ありました。また、研究や業界の動向についての説明も充実させてほしいという意見が 3 件ありました。前述の参加者の属性と合わせ、中堅以上の方々が注目講演・動向について情報を得たいという要望が高まり、基礎的な部分についての要望は低下していると受け止めています。



・開催形態：今回は現地での開催でしたが、ハイブリッド（現地+オンライン）が 65%と、現地のみ 35%を上回りました。コメントでは「ハイブリッドなら移動中に聞けるのでありがたい」「質問はしないので、オンライン配信でも十分」というものがありました。3 日間の IDW'24 の本番に先立ち出張日数を延ばすことが難しいため、出張移動中に聴講できるようオンライン配信してほしいということと思ひます。

以上をまとめますと、「チュートリアル」と題するイベントではありますが、基礎的部分よりも、注目発表と動向についての情報を効率的に得たいという中堅以上の方々の要望が高まっていると考えられます。今後この点を踏まえ、さらなる改善を検討していきたいと思えます。

最後に、本チュートリアルの開催のためにさまざまな形でご協力くださいました一般社団法人ディスプレイ国際ワークショップおよび IDW'24 の各 WS/TS を代表してご講演をいただいた講師の皆様、SID 日本支部の皆様、そして IDW'24 本番の前日に現地会場にお集まりくださいました全ての参加者の皆様に厚く御礼申し上げます。



チュートリアル会場の様子



【SID 日本支部主催】

SID 日本支部設立 50 周年記念講演会
水崎真伸 50 周年記念企画特命委員(シャープ)

第 4 回講演会

開催報告

「ディスプレイの高精細化およびマイクロディスプレイ技術」



2024年11月1日に SID 日本支部設立50周年記念講演第4回講演会を開催しました。本講演会の副題は“ディスプレイの高精細化およびマイクロディスプレイ技術”としました。FPD に対しては、“よりリアリティの高い映像”への要望が増えています。その実現に向けた取り組みの一つとして、より滑らかな表示にするため高解像度化（高精細化）が進められています。とりわけ2010年代以降、VR-HMD（Virtual Reality Head Mounted Display）用途向けで高解像度に向けた技術開発が加速しており、さらに今後 AR（Augmented Reality）や MR（Mixed Reality）用途に向けても高解像度は非常に重要になると考えられます。さらに AR/MR 用途を中心に、マイクロ OLED・マイクロ LED ディスプレイ技術への関心も高まっています。今回の講演会では7名の著名な講師の方々から、技術開発の変遷や次世代ディスプレイに向けた取り組みまでを分かりやすくご説明・ご紹介いただき大変有意義な時間となりました。講演会の内容を以下に示します。

- VR-HMD 高精細化技術開発（LCD および OLED ディスプレイ技術を中心に）
- マイクロディスプレイ技術についての開発の歴史および最近の動向
- 次世代に向けたマイクロ LED ディスプレイ技術の開発
- VR-HMD および AR/MR HMD の開発の流れ、および最新技術動向
- AR グラスの開発

今回の講演会の受講者数は、103名（うち学生参加者1名、オンライン83名、現地20名）と非常に多くの方にご参加いただき盛況となりました。委員のみならず講師の方々や SID 会員の中でも講演会開催のご案内を、おのおのご所属やお知り合いの方にしていただけたお蔭であり関係者一同深く感謝いたします。また同時に、FPD の高精細化およびマイクロディスプレイ技術については、今後のさらなる進展に、多くの方々が期待していることも感じる事ができました。日本の FPD 産業について暗いニュースを目にすることもありますが、その状況からの脱却をめざせる技術がどこかに有るかもしれません。そんなことを感じることもできる講演会だったと思います。

最後に、会場が混雑気味となりご不便をお掛けしましたこととお詫びいたします。次回に向けて改善を図ってまいりますので、引き続きのご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

第4回講演会のプログラムおよび講演者（敬称略）

プログラム	
1.マイクロディスプレイとその進化	秋元 修（ソニーセミコンダクタソリューションズ）
2.小型・超高精細マイクロ LED ディスプレイに資する Eu 添加 GaN 赤色 LED の新展開	藤原 康文（立命館大学 / 大阪大学）
3.AR/MR HMD 技術の進化	武川 洋（ソニーセミコンダクタソリューションズ）
4.VR-HMD 用 FPD に対する要求と実現	渡邊 好浩（ジャパンディスプレイ）
5.高精細 OLED における高性能化への取り組み	江口 晋吾（半導体エネルギー研究所）
6.AR/MR グラス用シースルーディスプレイ技術	白神 賢（Cellid）
7.Virtual Reality(VR)用超高解像度 LCD への挑戦	柴崎 稔（イノラックスジャパン）



写真：会場の様子

第5回講演会【最終回】開催にむけて

1975年に設立したSID日本支部は、今年50周年を迎えます。これまでFPDに関わった全ての関係者への感謝を込めて、第5回講演会を開催すべく委員で企画を行っています。第1回から第4回講演会までで取りあげた内容は以下となります。

第1回

FPDのはじまり

1960年代後半～2000年頃までのFPD黎明期の液晶技術開発や黎明期ならではの苦労談

第2回

バックプレーン技術

～アモルファスから酸化物まで～

1980年ごろからのFPD用バックプレーン技術開発（LCD用、OLED用など）

第3回

ディスプレイの大画面化

2000年以降のLCD・OLED・PDP中心に大型化・大画面化に向けた工夫を紹介

第4回

ディスプレイの高精細化 およびマイクロディスプレイ技術

2010年代から活発になっている高精細化やマイクロディスプレイ技術

この流れから、第5回講演会では2020年以降の動向を取り挙げることになると思いますが、詳細は委員会で検討中です。日程なども含め決まり次第 SID 日本支部 HP よりご連絡いたします。引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

第5回講演会の概要（企画中）

主催	SID 日本支部
副題（案）	今後のフラットパネルディスプレイ
日時	2025年夏ごろの予定 10:00 ~ 16:50
開催形式	ハイブリッド形式
その他	決まり次第 HP よりご連絡いたします

IDW '24

森 裕行 IDW '24 実行委員長（AGC 株式会社）

開催報告



第31回ディスプレイ国際ワークショップ(IDW '24)が、SID と ITE の主催により 2024 年 12 月 4 日(水)から 6 日(金)に札幌コンベンションセンターで開催されました。コロナ禍でのオンライン開催、ハイブリッド開催を経て、IDW '24 は前回に引き続き現地のみでの開催となりました。論文発表件数は、4 件の Keynote Address を含め計 504 件で、昨年と比べ 68 件(16%)増加、参加者数は、国内 721 名と海外 432 名を合わせ計 1,153 名で、昨年と比べ 111 名(11%)増加し、コロナ禍前の活況を取り戻しつつあると言えます。

会議冒頭の Opening Remarks として、実行委員長の開会宣言の後、鬼島靖典組織委員長が IDW '24 全体概要を紹介、Ioannis Kymissis SID 会長、鈴木教洋 ITE 会長が開会の挨拶、山本裕紹プログラム委員長がプログラム概要の紹介を行いました。続いて Kobayashi-Uchiike-Mikoshiha 賞の授与式を行い、陶山史朗氏、

長谷川雅樹氏、小林範久氏に対してディスプレイ分野の業績と IDW への貢献が称えられました。

Keynote Address では、Jung H. Hah 博士(SK Materials Inc., CTO)より「革新的なディスプレイ材料のトータルソリューション」に関して、Uwe Vogel 博士(Fraunhofer Institute for Photonic Microsystems IPMS)より「高性能の眼鏡型ディスプレイのための半透明 CMOS バックプレーン技術」に関して、廣瀬通孝博士(東京大学名誉教授)より「VR・生成 AI・メタバースによる Society5.0 社会」に関して、Barry Silverstein 博士(Meta Platforms, Inc.)より「AR で AI の力を解き放つことによるディスプレイ技術の未来像」に関して、講演をいただきました。Keynote Session ではディスプレイ技術領域を幅広く取り上げ、さらに AI を援用することで広がるディスプレイの将来展望について示唆に富む内容となり、参加者の注目を集めました。

Special Session では「生成 AI による画像・映像生成の進化」をテーマに、名古屋大学客員教授の野辺継男博士(名古屋大学客員教授)、土井美和子博士(情報通信研究機構理事)、小林由幸博士(ソニーグループ)、佐々木久幸博士(NHK 財団/NHK)が講演を行い、各氏の専門分野である「自動車」、「サイバーフィジカルシステム」、「画像生成」、「3D イメージング」の観点から、生成 AI がディスプレイ技術に与える影響と、その将来性について深い洞察を示しました。

Oral と Poster の論文発表では、常設の 13 の Workshops(WS)と、新たな注目分野を扱う 3 つの Topical Sessions(TS)、複数の WS や TS に跨がる Special Topics of Interest(STI)の各 Session において、ディスプレイに関連する幅広い分野で発表が行われました。前年を踏襲し、TS として、(1) DX Sensing and Radiation Imaging、(2) Image Sensing Technologies、(3) Metaverse System を設け、STI として、(1) Artificial Intelligence and Smart Society、(2) AR/VR and Hyper Reality、(3) Automotive Displays、(4) Micro/Mini LEDs、(5) Quantum Dot Technologies を取り上げました。Oral Session、Poster Session とともに発表者と聴講者が活発に交流し、議論に盛り上がりを見せていました。

今回新たな企画として高等専門学校の学生たちによるデモセッション I⁴D Contest を実施しました。10 チームのエントリーがあり、デモ発表で創造性と技術力を競い合いました。若い学生たちの活力が感じられ、

非常に好評でした。また、I-DEMO は 45 件のデモ発表があり、展示は企業 19 社、大学 7 団体が出展しました。初日の夜に華為技術日本株式会社の協賛による Display Night が開催され、OLED 材料と素子特性に関して Jun Yeob Lee 博士(Sungkyunkwan University 教授)、大画面 Microelectronics に関して Norbert Fruehauf 博士(University of Stuttgart 教授)から講演をいただきました。会期 2 日目の昼食休憩時間には、日本シノプシス合同会社による Luncheon Seminar が開催されました。

表彰については、Best Paper Award が 18 件、Best Student Paper Award が 16 件、Outstanding Poster Paper Award が 18 件、I-DEMO Award が 2 件、I⁴D Best Demonstration Award が 1 件、I⁴D Recognition Award が 1 件授与されました。

最後に、本会に協賛いただいた学会の皆様、ご支援、ご協力いただいたワークショップ委員、組織委員、実行委員、プログラム委員の皆様、現地会場スタッフの皆様、アルバイト・ボランティアの皆様、IDW 事務局の皆様へ厚くお礼申し上げます。また、IDW '24 の会議運営および開催への財政的な支援を、科学研究費補助金(課題番号: 24HP0303)、立石科学技術振興財団、賛助企業・賛助会員の計 13 社から得ました。ここに感謝申し上げます。

IDW 学生発表者支援制度を受けて IDW'24 に参加して

SID 日本支部ではダイバーシティ活動の一環として、IDW への参加者に対して、登録料の支援を行っております。2024 年は発表者 13 名の方が応募されました。2025 年以降もこの制度を続けていきますので、学生の皆様はぜひ応募してください。(HP 接続先: [IDW 学生発表者支援制度](#))

支援を受けた学生の皆様からの声をいただきましたので紹介します。



宇治 駿 (千葉大学)

この度は、IDW'24 への参加に際し、ご支援を賜りまして誠にありがとうございます。ナノサイズまで微細化した銀ナノ粒子は、プラズモン共鳴と呼ばれる光電場と粒子内電子の相互作用により、赤や緑、青など粒子形態に基づいた鮮やかな発色を示すことが知られております。私はこの銀ナノ粒子の発色機構を反射型ディスプレイデバイスに応用するため、日々研究に取り組んでおります。今回我々は、ナノ粒子の表面保護剤を電解液に添加することで、ロッドや針状といった異方性を有する粒子形態を得ることに成功いたしました。IDW'24 ではこの内容に

ついて、“Improvement of Coloration Property in Silver Deposition-Based Electrochromic Device with Organic Stabilizing Agents”の題目で口頭発表を行い、この分野で活躍されている研究者の方々と活発な議論を交わすことができました。その結果、“Best Student Paper Award”の受賞に至り、今後の研究生活のモチベーションを高める素晴らしい機会となりました。

最後に、今回のご支援に関しまして SID 日本支部の皆様重ねて御礼申し上げます。

小倉 秀斗 (徳島大学)

この度は、IDW'24 への参加に際し、ご支援を賜りまして、誠にありがとうございました。私は、ToF カメラを用いた 3D モデリングにおける精度向上に関する研究に取り組んでおり、その成果を“3D Modeling Method from ToF Camera Using Reflection Intensity”という題目で口頭発表させていただきました。本学会では、多くの研究者と議論を交わす貴重な機会を得ることができ、自身の研究に対する多角的な視点を養うことができました。特に、センシング技術に関する最新の研究成果に触れ、今後の研究の方向性をより明確にすることが



できました。また、質疑応答を通じて、研究者の方々から貴重なご意見を頂戴し、研究のさらなる発展につながる多くの示唆を得ることができました。今回の IDW'24 への参加は、私にとって大変有意義な経験となり、今後の研究に向けた大きな励みとなりました。引き続き、研究の深化と発展に努め、成果を発表できるよう精進してまいります。最後に、本会への参加にあたり多大なるご支援をいただきましたこと、心より御礼申し上げます。



齋藤 健太 (徳島大学)

はじめに、IDW'24 への参加費用に関してご支援いただき誠にありがとうございます。私は、空中像の立体感についての研究を行っており、IDW'24 では、“Comparison of Pseudo-3D Perception between Aerial Image and Non-aerial Image”という題目で口頭発表をさせていただきました。自身の発表では、多くの方に聴講していただけた中で、他の研究者の方から貴重なご意見もいただきながら有意義な時間を過ごすことができました。また、私の装置のデモ展示をさせていただく機会も設けていただいたことで、多くの方と交流することができ、

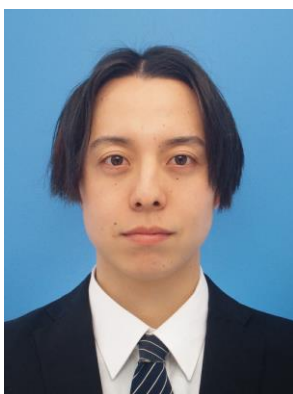
貴重な意見や新たな知見を得ることができました。これらの意見や新たな知見を今後の研究に活かしていきたいと考えております。

最後に、今回の学会参加に対するご支援に関しまして、重ねて御礼申し上げます。

佐々木 光生 (東京大学)

この度は、IDW'24 への参加に際し、参加費のご支援を賜り、誠にありがとうございました。私は、自己ドーピング型 PEDOT をフレキシブル有機光検出器の透明電極に応用する研究を進めており、今回の IDW にて「Flexible Organic Photodiode Using Self-Doped PEDOT as a Transparent Electrode」という題目で口頭発表をさせていただきました。世界をリードする研究者の方々の前で発表し、深く議論する機会をいただけたことで、視野が広がるとともに、自身の研究の意義や価値を改めて考えるきっかけになりました。また、研究室で開発しているフレキシブルイメージャーの展示も行い、産学さまざまなバックグラウンドを持つ方々に関心を寄せていただくことができました。今後も引き続き研究活動に専念し、成果を再びこの場で発表できるよう、精進してまいります。

最後になりますが、本会への参加に際し、多大なるご支援を賜りましたことに、改めて深く御礼申し上げます。



篠田 裕喜 (鳥取大学)

この度は IDW'24 への参加費用をご支援いただき誠にありがとうございました。私は白色 LED 用の新規赤色蛍光体の作製を目標に日々研究を行っており、今回は「Charge Transfer State of Eu^{3+} Activated LaSiO_2N Synthesized in NH_3 」という題目でポスター発表をさせていただきました。さまざまな方がひと目で理解できる発表にできるように、ポスターや予備資料想定される質問に対する回答などを何度も推敲し本番に挑みました。発表当日は多くの研究者の方々からご質問やアドバイスをいただき、今後の研究をさらに発展させるきっかけに

することができました。また、世界で活躍されている研究者のご報告や展示は非常に刺激的であり、研究へのモチベーションを高める素晴らしい機会となりました。

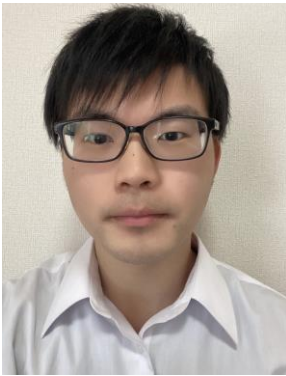
最後に、学会参加にあたりご支援いただいたこと深く感謝申し上げます。

田澤 礼旺（工学院大学）



まず初めに、今回の IDW'24 への参加に際して費用のご支援を賜りまして誠にありがとうございました。私は現在、液体金属を活用したディスプレイ・光学デバイスへの応用に関する研究を行っており、今回の IDW'24 では「Electrically Controlled Liquid Metal Optical Device for Dynamic Reflection and Blocking」という題目でポスター発表をさせていただきました。初めての英語での学会発表に加え、液体金属という新しいアプローチを提案する内容であったため、非常に緊張しておりましたが、結果的に自信を持って発表を皆さんにお伝えすることができ、多数の研究者からさまざまな観点からの貴重なご意見やアドバイスをいただき、有意義な議論を交わすことができました。また、他大学や企業の方々の展示や発表を拝見した際には、ディスプレイ関連の最新の研究動向や新しい知見など得ることができ、今後の自身の研究発展に寄与できるとも良い機会となりました。海外の参加者と話した際には英語でのコミュニケーションの大切さを実感することができました。今回の学会発表で得た経験は、自己成長に欠かせない貴重なものだったと改めて感じております。

最後に、今回の学会参加にあたりご支援いただきましたこと、重ねて御礼申し上げます。



時元 康貴（九州大学）

この度は IDW'24 への参加にあたり、ご支援をいただき、誠にありがとうございます。私は「Bootstrap Inverter Using Dual-Gate IGZO TFTs」という題目でポスター発表を行いました。今回が初めての国際学会参加であったため、英語での資料作成や発表準備に苦勞する場面も多々ありましたが、英語で分かりやすく伝えるために工夫を重ねた今回の体験は、自身の成長につながりました。また、前日に行われた SID 主催の発表リハーサルは、発表の質を大きく向上させる大変有益な機会となりました。発表では、多くの大学や企業の研究者の方々に来ていただき、貴重なご意見をいただくことができました。これらのご意見を、今後の研究にぜひ活かしていきたいと考えております。また、他の発表者に積極的に英語で質問を投げかけ、コミュニケーションを取ることができた体験も、自信につながりました。

改めて、今回の学会参加に対するご支援に心より感謝申し上げます。

町頭 悠太（徳島大学）



IDW'24 の参加に際しまして、ご支援賜りましたこと、深く感謝申し上げます。私は AR の視認性を向上させるための手法の検討とその評価を行っており、IDW'24 では「Utilization and Visibility of Gaze-Reactive Blur in AR-Based Character Display」という題目で口頭発表させていただきました。多くの方々に聴講していただき、そして貴重なご意見を頂戴できましたこと、大変嬉しく思います。また Best Student Paper Award にも選出していただき、大変光栄に感じています。他にも、聴講やデモ展示を通して、同じ分野を研究されている方々の研究内容を拝見し、研究動向や新たな知見などを学ぶことができました。今回の参加および発表を通して得られたものを活かして、今後の研究に励んでいきたいと思っております。

最後に、本学会の参加にあたり、ご支援いただきましたこと、重ねて御礼申し上げます。



Tan Rui (九州大学)

I would like to express my sincere gratitude to the SID Japan Chapter for their generous support, which enabled my participation in IDW'24. This conference was one of the largest and most comprehensive academic events I have ever attended, bringing together researchers and industry experts from a wide array of technical backgrounds. It was a great honor to present my work, titled "Using Freeform Holographic Optical Elements to Optimize Free-Focusing AR Eyeglass Design," and to receive constructive feedback from international scholars who provided new perspectives on my research. This experience taught me the importance of clear communication, especially when presenting to a global audience with diverse technical expertise. I also found tremendous value in engaging discussions that helped me refine my research focus and explore potential collaborations. Overall, IDW'24 served as a pivotal moment in my academic journey and underscored the significance of continual learning and open-mindedness. Once again, I extend my heartfelt thanks to the organizers and supporters for this invaluable opportunity, and I look forward to applying the lessons I've learned as I strive to produce high-impact research in the years ahead.

栗倉 幸 (東京大学)

この度は IDW'24 への参加費用をご支援いただき誠にありがとうございました。私は、電圧スイッチングによって 2 つの異なる波長帯を選択的に検出可能なフレキシブルなイメージセンサに関する研究を行っており、“Flexible Organic Photodetectors Capable of Selectively Detecting Visible and Near-Infrared Light”という題目で発表させていただきました。本学会は私にとって初めての国際学会であり、自身の発表に気合いが入るとともに、国内外からの多くの研究者の発表をきくことができ、終始楽しく参加することができました。自身の発表に関しては、ディスプレイ主体の本学会では少し異色な研究内容だったかと思いますが、多くの方に興味をもって聞いていただけました。発表後には複数の研究者の方からこの研究に今後求められる性能などについて貴重なご意見をいただくことができ、感謝するとともに大変有意義な場であったと感じています。今後も研究に真摯に向き合い、継続して成果を創出できるよう努力してまいります。最後に、本学会参加にあたりご支援いただきましたこと、深く感謝申し上げます。



Mir Mutakabbir ALOM (高知工科大学)

I had the honor of participating in IDW'24, an enriching platform that brought together researchers and professionals from around the world. I am deeply grateful to the SID Japan for their generous support in covering my participation fee, which enabled me to share my research through an oral presentation titled "*Highly Reliable Hydrogen-Doped Polycrystalline Indium Oxide Top-Gate Thin-Film Transistor (InO_x:H TFT) with Hydrogen-Free SiO₂ Gate Insulator and Boron Implanted Source and Drain Regions.*" I am truly humbled to have received the **Best Student Paper Award**, which has been an inspiring recognition of my work. Beyond my presentation, the conference provided an excellent opportunity to engage in meaningful discussions with fellow researchers, allowing me to gain valuable insights into current research trends, particularly in the field of oxide semiconductors. This experience has greatly enriched my academic journey and inspired new perspectives for future exploration.

2025年SID日本支部体制のお知らせ

SID日本支部規約に従い、役員選挙電子投票を行い、以下の通り役員が決定いたしました。

- 支部長 中村 卓 (ジャパンディスプレイ)
- 副支部長 山本 裕紹 (宇都宮大学)
- 庶務幹事 清水 貴央 (NHK)
- 会計幹事 工藤 幸寛 (工学院大学)
- 庶務幹事補佐 神戸 江美子 (出光興産)
- 会計幹事補佐 岡庭 みゆき (コニカミノルタ)

また、投票対象外の委員として、日本支部 Director、特命委員として下記の皆様にご協力をいただきます。

- 日本支部 Director 辻村 隆俊 (コニカミノルタ)
- 特命委員
 - プログラム委員会委員長 中村 卓 (ジャパンディスプレイ) 支部長兼任
 - 会員増担当 志賀 智一 (電気通信大学)
 - 会員増担当 (副) 桶 隆太郎 (パナソニック)
 - 選挙管理委員 服部 励治 (九州大学)
 - サマーセミナー校長 木村 睦 (龍谷大学)
 - サマーセミナー副校長 荒井 俊明 (ジャパンディスプレイ)
 - トレーニングスクール校長 山本 裕紹 (宇都宮大学)
 - トレーニングスクール副校長 檜山 邦雅 (コニカミノルタ)
 - 50周年記念 水崎 真伸 (シャープ)

2025年 主な学会、研究会等日程のお知らせ

日程	研究会名	開催地
1/23-24	発光型/非発光型ディスプレイ合同研究会	静岡大・佐鳴会館 (済)
3/4	(一社)照明学会 光源・照明システム分科会 公開研究会 ～防災・減災・復興に貢献する照明～	東京工芸大学中野キャンパス2号館 (講義室2201) (ハイブリッド)
3/7	JEITA 電子ディスプレイの人間工学シンポジウム2025	AP 東京丸の内 (ハイブリッド)
5/11-16	SID Display Week 2025	San Jose, USA

編集後記：

巻頭記事は、2025年より新しく支部長になるジャパンディスプレイの中村様と、2023年から2年間支部長を務めていただいた九州大学の服部先生に執筆いただきました。新しい支部長の元、記念すべき支部50周年の活動を活発化していく予定です。今年は、毎年恒例となりましたトレーニングスクール、Display Week 報告会、サマーセミナーに加え、50周年記念講演会の最終回を開催する予定ですので、ふるってご参加ください。また、Display Weekは5月11～16日に開催されます。日本支部では、学生発表者に渡航旅費などを支援するプログラムもあります。HPに詳細を記載していますので、ぜひ応募をご検討ください。

最後になりますが、2023年のNews Letter84号から今回の88号まで1年半編集を担当してきましたが今回が最後の編集作業となりました。これまでご覧いただきありがとうございました。次号からは出光興産の神戸江美子様を担当しますので、引き続きよろしく願いいたします。

～ 禁無断掲載 ～

本テキストに記載されている資料の著作権は執筆者にあります。執筆者の承諾なく複製することは、社内用、社外用に問わず禁止されています。無断複製は損害賠償、著作権法の罰則の対象になります。

編集担当：清水 貴央 (NHK 技研) email: shimizu.t-li@nhk.or.jp

SID 日本支部 HP: <http://www.sid-japan.org/>